

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes 0190502344, 医療法人社団NYC, グループホーム せせらぎ, 札幌市豊平区平岸8条12丁目3番68号, 令和5年5月, 令和5年7月12日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JisvovsoCd=0190502344-00&ServiceCd=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍のため密を避け自粛や縮小をしていますが、少しでも日常と違った環境を提供し気分転換を図るためイベントに力を入れています。お花見やクレープのキッチンカーを呼んで青空の下で召し上がっていただいたり、施設内では、ランチバイキング、パンまつり、お誕生会などを開催。地震を想定した避難訓練と炊き出し訓練を兼ねたバーベキューも行っています。クリスマス、お正月、豆まきなどの行事もイベントとして楽しんでいただいています。初の試みで、普段なかなかメイクをする機会がない利用者様に華やかなメイクを楽しんでいただくことと外部からプロのメイクアップアーティストを呼ぶイベントも開催しました。お正月の大道芸イベントでは獅子舞や腹話術や南京玉すだれを披露し、利用者様には昔を思い出しかしんでいただけようです。毎月『せせらぎだより』を発行し、行事やイベントはもちろん、日常の何気ない利用者様のご様子をご家族様にお伝えできるよう努めています。ホーム前のアンパン道路には桜並木があり、月寒公園も近くにあるため、天気が良い日には、利用者様と一緒に散歩に出掛け、季節を肌で感じていただくことが出来ます。また、近くの幼稚園で飼育しているさぎやアヒルやエミューなどの動物を見に行くことができるため動物好きな利用者様に喜ばれています。散歩をしながら地域の方とのふれあいを大切に、交流の機会を増やせるよう努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 令和5年6月13日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームせせらぎは、地下鉄から徒歩圏内、目の前には桜並木や大きな公園があり恵まれた立地である。現状の自粛環境を踏まえつつ、理念に沿って利用者それぞれの生活リズムを大切に、アウトホームで自由な暮らし作りを目指している。感染症対策を講じつつ、季節行事のほか、庭先でバーベキューやキッチンカーでクレープを食し、大道芸イベントは昨年時の利用者の反応を見て演目を変更するなど、利用者が楽しみ事を十分に楽しめる演出を考えている。また、その時々可能な外出を支援し、散歩では幼稚園の飼育動物を見学したり桜並木の散歩、読みたい本や必要品の買い物などに出掛けている。コロナ禍であっても、利用者個々の状態や意向に沿い、大切な時間がその人らしく充実できるように、心身の機能維持も考慮し、柔軟な行動力と知恵や工夫をもって取り組んでいる。家族には、写真満載のせせらぎ便りや職員からの手紙で、利用者を気遣う家族の心情に配慮している。訪問診療体制を整え、チームケアで終の棲家を提供しており、多くの利用者、家族は事業所での終末を希望している。パラエティーに富む食事、様々な訓練に取り組む防災意識の高さも特筆の点である。感染症収束を見据え、滞ってきた地域交流の推進に臨んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects like staff understanding, user participation, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の玄関に運営理念は掲示されており職員一人ひとり知ってはいるが、全員が理念を理解し共有して実践できているとは言えない。	4項目の理念は、職員の共通姿勢として認識を深めている。現在は地域の関わりは難しいが、家庭的な環境の中でその人らしい生活提供に力を入れている。職員各々が年度や月間の目標を上げ、理念に沿ったサービスの実践に日々努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加。毎年町内の活動には参加していたが、コロナ禍の影響で自粛している。	町内会から恒例の苗が届き、利用者と花植えを予定している。普段から近隣の人達とは関わりを持ち、散歩コースにある幼稚園では、飼育動物の見学や園児達と声を掛け合うなど、地域に親しんだ日常が継続されている。	コロナ感染症5類移行後は、自粛してきた地域行事の参加や住民交流の推進する意向であり、その取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に「お茶しませんか」と呼びかけを行っていたが、コロナ禍の影響で自粛している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	区の担当者と連絡を取り合い、情報交換をはじめとした連携、相談、報告を行い現場の実情を伝えるよう努めていたが、今年も密を避け書面による報告のみである。	定期的に事業所の現状を書面にまとめ、せせらぎ便りも添え包括職員に送付している。コロナ収束後は、従前のような系列事業所合同で、参集協力を得た会議を予定しており、意見交換を図りながら運営に活かす方向にある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	以前は、市、区の担当者と連絡を取り合い、情報交換をはじめとした連携、相談、報告を行い現場の実情を伝えるよう努めていたがコロナ禍の影響で今年も行えていない。	管理者やケアマネジャーが、随時行政の担当職員と連絡を取り合い、報告や情報交換を行っている。保護費関連や介護保険認定更新時でも連携し、また、感染症対応では保健所からも迅速な助言や物資提供の支援を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年事業所内で勉強会を行っていたが今年も密を避けている。毎月カンファレンス時に、事故報告、身体拘束について話し合う時間を設けている。普段の声掛けで気になる声のかけ方をしていないか、拘束になる対応をしていないか話し合いをしている。	指針の下で、月1回事故対策・身体拘束委員会を開催し、全職員に議題内容を周知している。勉強会では禁止対象となる内容の確認とともに、具体的なケア場面を提示し拘束に至らないための協議を重ねている。日常でも職員の意識啓発に向け適切な接遇の実践を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年事業所内で勉強会を行っていたが今年も密を避けている。毎月カンファレンス時に、事故報告、身体拘束について話し合う時間を設けている。普段の声掛けで気になる声のかけ方をしていないか、拘束になる対応をしていないか話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が日常的な金銭管理サービスを活用できるよう支援している。成年後見制度については勉強不足である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が説明を行い、理解納得していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、ご家族様へ送るお手紙に気軽に、ご相談頂けるよう記載し、来訪された時にも、気軽にお話しできる環境を整えている。	家族との良好な関係構築を大切にしている。散歩の要望などは現状でできる限り対応し、家族からはコロナ禍での労いの言葉も多く出されている。毎月写真満載の通信と、職員直筆の個別便り、時には写真も同封し、暮らしの様子をきめ細かく報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやアンケートにて食事や生活支援について日常的に意見や提案をしやすい環境作りに努めている。	職員の意見等は、会議上や内容によりアンケート方式で聴取している。職員も発注や備品管理などで主体的な役割を担い、運営や業務遂行に意見を反映している。事業所内の意思疎通を図り、ストレス緩和に留意し、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制の変更や個人チェックシート(人事考課)の導入、外部研修、勉強会、資格取得制度があり、向上心を持って働くことができるよう努めているが十分ではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や資格取得制度を受ける機会を設け、働きながらスキルアップできる体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修で交流、グループホーム連絡会、また勉強会で外部の講師が来ることもあったが、コロナ禍の影響でできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族が入居前の面談から、病院や利用していたサービス事業所からの情報を基に、入居に関する不安や要望を聞き安心して入居できるよう信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族が入居前の面談から、病院や利用していたサービス事業所からの情報を基に、入居に関する不安や要望を聞き安心して入居できるよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を基に、ご本人とご家族がホームでの生活に必要な支援は見極めているが、ほかのサービス利用までは、含めていない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯物畳み、ブランターの花の水やりなど出来ることをする自立支援を意識し、感謝の言葉を伝え共に支えあう関係を築けるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活を伝える毎月のお手紙やせせらぎだよりの送付、来訪時の近況報告などによりご家族との連携を図っている。ご家族にも協力を頼み、共に支援していく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染みの方の来訪は、日時に関係なく可能としていたが、コロナ禍の影響で制限している。希望があれば電話をかけたりとできる範囲で支援している。	今までの繋がりが途切れないよう継続性を大切にしている。家族や友人、知人などの面会では、感染防止の方法を工夫している。電話を取次ぎ、携帯電話保持者には使い方を助けている。理、美容師や主治医とも顔馴染みであり、安心できる関わりになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や利用者同士の関係を把握したうえで席を考慮している。また、イベント、レクリエーション等は1、2階合同で行ったりと他のユニットの利用者ともかかわる機会を持つことができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も相談の連絡があったときは、状況に応じた対応をしている。ご家族様が来訪していただき、ご本人様の近況等を教えてくださることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話をよく聴き、また言葉で上手く表現できない方には、表情や行動を観察し、希望や意見の意向の把握に努めている。職員間で情報を共有し、本人本位の生活を支援している。	殆どの利用者とは言葉でのやり取りが可能であり、日々の生活の中から意向を聞き取り、選択肢の提示で決定しやすい状況を作っている。また、好きなものや、したいことなどが急に変わることもあり、職員間で密に共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族とよくお話しし、提供された生活歴や家庭環境などの情報により、一人一人のこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察に努め、日誌に記録し申し送りをし職員間で共有している。また、毎月のカンファレンスで総合的に把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームでアセスメントを行いご本人、ご家族、関係者それぞれの意見や毎月行っているカンファレンスで出た課題や改善点を取り入れケアマネが作成している。	利用者、家族の意向、医療関係者の指示を踏まえ、全職員の視点で検討し介護計画を作成している。定期や状態の変化に応じて見直しを行い、現状確認や評価を通して、現在の本人の残存能力を活かし、かつ維持・継続できることを重視して計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など一人ひとりの状態を具体的に日誌に記録している。ヒヤリハット、事故報告書等をカンファレンス、日々の申し送りで共有。介護計画の見直しに活かしているが今後も改善と見直しが必要。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の通院や外出支援等、その時々生まれるニーズに柔軟に対応できるよう努めている。以前入居されていた方で、椅子での座位が難しい利用者様に対して座卓や座布団にて過ごせるよう工夫するなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に参加。コロナ禍のため中止となったが、地域の相馬神社例大祭のこども神輿は毎年立ち寄り、地域の方との交流の場になっていた。また、消防署協力のもと避難訓練を行っており、安全に暮らせるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある場合は提携している病院の往診を受けられるよう体制を整えている。また別の病院の受診を希望された場合でも、適切な支援を受けられるよう支援している。往診結果は毎月ご家族に報告している。	協力医療機関の月2回の訪問診療を利用し、いつでも相談や指示を得る事ができている。他のかかりつけ医や専門科医には、家族と職員が協力して受診している。週1回法人看護師の健康管理と薬剤師による調薬管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に数回の訪問看護、向かいに同グループの看護小規模ホームがあり変化があった場合はすぐに伝え指示を仰いでいる。また、急変時でも提携している病院の看護師が24時間対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を密に行い、入退院に向けた支援体制を整えている。状況に応じ家族との話し合いの場を設け、記録している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの支援を希望されているご本人やご家族と早い段階で話し合いを行い、方針を共有し病院、看護師、職員と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時や状態が悪化した過程で、利用者、家族の意向を聞き取り、事業所の支援の在り方を説明している。重篤では主治医の判断を経て利用者、家族の希望の看取り支援に移行している。関係者間で方針を共有し、職員を支える態勢も整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり職員は目を通してはいるが実際の場面に遭遇した際、全ての職員が適切な対応が行える実践力を身に付けているとは言えない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力のもと、年2回避難訓練を行っている。昨年は、火災訓練と地震避難訓練を行った。他の訓練も行っていきたい。	昨夏には地震後の火災を想定し、ライフラインの停止での炊き出し訓練を実施している。2回目の実践訓練は、昇降機利用や毛布での階段降下、入浴時など、非常時に起こりうる場面を想定し実施している。防火自主点検は日々の日誌で確認し、各種の備蓄品も順次点検、補充している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉掛けに努めているが不十分。工夫と指導が必要。毎月のカンファレンス、身体拘束委員会で対応を学び、職員間で常に意識している。	利用者の尊厳に配慮した言葉使いを共有し、気になる場面は管理者の注意や、会議の中でケアの実際をふり返り、適切な支援を学んでいる。申し送りや記録記入の場面では、利用者が不快にならないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を優先とし、ご本人が意思表示ができるような問いかけに配慮し、利用者の立場に立って考えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の支援を第一に考え、利用者のペースに合わせた対応を心掛けてはいるが、職員全員が十分とは言えない。工夫と指導が必要。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望に沿って理美容利用できるように支援している。毎朝、見守りが必要な方には職員と一緒に洋服を選んだりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態によって刻みやミキサー食にて対応。食事を美味しく召し上がっていただける工夫をしている。可能な利用者様には、配膳準備・片付けなどを職員と一緒に楽しみながら行っていただき、力を活かせる工夫をしている。	昼、夕食は隣接の系列事業所から運ばれ、朝食と麺類等は職員が調理している。食事作りは、利用者へ負担なく出来ることを願っている。誕生会は好きな料理で、イベント時は職員も一緒に食事を摂り、テイクアウトや取り寄せ、屋外ランチなど、趣向を凝らしたメニューが利用者へ好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は個別に記録し職員間で共有し把握するとともに、毎月体重測定を行い体調管理を行っている。個別に刻み、ミキサー食、粥食を提供している。むせこみがある方には水分にとろみをつけるなどの配慮をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で口腔ケアが可能な方には見守りを行い、難しい方には声掛けや誘導を行い、うがいや歯磨き、義歯の手入れなどの支援を行っている。個別に定期的な訪問診療、歯科衛生士による口腔ケアの実践、助言、指導をしてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し個々の排泄パターンを把握している。できるだけ排泄誘導を行いトイレでの排泄を支援している。トイレの声掛けには無理強いせず、利用者へ合わせた対応に努め、自立に向けた支援を行っている。	排泄が自立している利用者も多く、トイレで自然な排泄を基本にしている。気持ち良く過ごせるための衛生用品は、本人の意向を確かめながら取り入れている。排泄が頻回の場合は、介助法も含めて主治医に相談し、落ち着いて過ごすことができるケアを検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の1日の食事、生活状況を見直し、水分量を増やしたり、食物繊維の多い食事や乳製品の提供。腹部マッサージ・温タオルによる腹部の温めを行うなど、個々に合わせた予防、対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴できるよう支援している。なるべく本人の希望に沿えるよう順番や温度など配慮している。拒否が強い方には、職員を変えたり、時間・日にちの変更、シャワー浴・清拭に切り替えるなど柔軟な対応に努めている。	湯舟入浴を基本に、個別に週2回以上の入浴を支援している。時間帯や同性介助、毎日の入浴などの希望もあり、可能な対応に努めている。拒む場合も職員主導にならないよう日時を変更したり、清拭やシャワー浴で保清している。リラックスした中で昔話や会話が楽しめる時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切に、日中、夜間共に休息したり、安眠できるよう支援している。眠りが浅い、眠れない方には医師に相談を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導が入り、薬剤師から薬の注意点や副作用について説明を受けている。また、服薬時、服薬後の様子や、わからないことを相談し理解を深めている。薬剤情報を常に確認できるよう個人ファイルを更新・整理している。薬の管理、与薬時は、必ず複数の職員で確認し、誤薬予防に努めている。		
48		○役割、楽しみことへの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりがいや張りのある生活を送れるよう出来ることは手伝っていただき、個々の力量に応じた家事を行えるよう支援している。生活歴やお聞きした情報をもとに、気分転換や楽しみが持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と外出・外泊できるよう支援したり、近隣への買い物、散歩の支援やホームの前で洗濯物を一緒に干したり、外気に触れる機会を少しでも作れるよう心掛けているが、コロナ禍の影響で現在は制限されている。	感染対策を講じつつ、制限の範囲内で柔軟対応に努めている。プランターに花植えをしたり、近隣の桜並木の散策、散歩先でアイスを食べたり、必需品などの購入に付き添っている。日常の中で外気に触れ、少しでも心身の活性化につながるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者が金銭管理を行うことの重要性について理解しており、自己管理が可能な利用者は、ご自身で少額を管理して頂いている。難しい利用者については、家族から預かり必要に応じて使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居間の電話は、いつでも電話できるよう支援している。ご自身で電話をかけることが難しい場合は代行支援している。希望があれば利用者様の手紙を投函することにも対応。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には共有のテレビがあり、利用者がくつろいで過ごせる空間になっている。掲示板には季節感のある装飾物を、月替わりでディスプレイし、行事写真なども飾っている。コロナ対策として空気の入替えにも配慮している。	利用者が居心地よく過ごせる環境に配慮している。光など気になる刺激は都度調整し、換気や温・湿度も適切に管理している。季節毎の装飾は利用者と一緒に作り、一緒に自分たちの家作りをしている。皆が集うユニット合同行事は、リビングの飾り付けから始まり楽しいひと時を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブルを複数に分けているので、一人でも複数でも自由にくつろげるよう工夫している。希望に応じて椅子の場所を移動するなど配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様とご家族様の希望になるべく対応できるよう配慮し、使い慣れた家具やご家族との写真など、思い出の品や好みのものを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ベッドやタンスは備え付けのものもあるが、自宅から馴染みの家具やテレビ、愛着のある縫いぐるみや置物、家族写真等を持ち込んでいる。本人と家族の希望を確認し動線を考慮して、ベッド等を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の力量に合わせ、残存機能の維持に努めている。転倒や怪我などがないように危険個所の除去、点検を行い、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		